

繊維産業 新展開を支援

毛織物などの繊維業が盛んな愛知県尾張地域。繊維産地として国内経済の発展に寄与してきた。しかし近年は国内市場の需要減少や中国などの海外製品の流入により、産地企業の多くが厳しい経営環境に直面している。こうした状況下で愛知県の公設試験場である愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センターを中心に、繊維産業活性化に向けた取り組みを進めている。(名古屋・伊藤吉登)

愛知県尾張地域

尾張地域の一宮市や稲沢市などには優れた繊維物、染色、燃系技術を持つ企業が集積する。しかし「あいちの工業」によると、同地域が大半を占める愛知県の毛織物の製造品出荷額は1999年の1003億円から08年は493億円と平成は、事業者数も約200社減の145社となった。少子高齢化の進展による国内需要の低迷と中国などからの安価な製品の大量



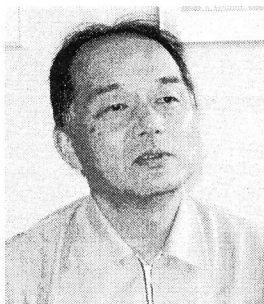
センサーの機能を持たせた織物

よりのパノコ他のセンサーとも人事交流が進み、電子や電機などの専門知識を持つ研究員が所属するようになった。このためセンサー機能を持たせた繊維など新部材の研究開発も進んでいる。尾張繊維技術センターの池口達治主任研究員は「服がセンサーの役目をし、近づいたり触れたりすると認識する」と話しており、介護や産業用ロボットの需要を模索する。

事例 木曾川商工会 織物技術を活用 先端分野に照準

木曾川商工会(愛知県一宮市、五藤政尋会長、0586・87・3618)は「木曾川産業クラスター創生協議会」を10月1日に発足させた。協議会では、繊維技術を活用した先端分野への展開を目指す。協議会では、繊維技術を活用した先端分野への展開を目指す。協議会では、繊維技術を活用した先端分野への展開を目指す。

未来を築く 地域発イノベーション



加藤 淳二氏

繊維業界を取り巻く現状を愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センター機能加工室の加藤淳二室長に聞いた。

公設試験センター 織物開発着々

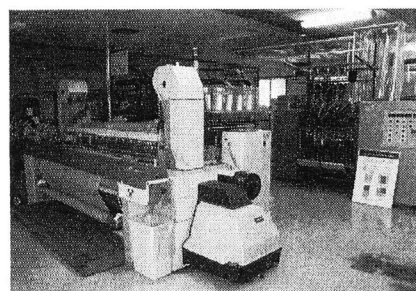
「愛知県尾張地区の繊維業界の現状は、「アパレル向け織物は中国などからの安価な製品の流入で生産量が減少している。価格競争では勝てない。中国産地の品質向上も進んできているが高級品など付加価値の

付加価値向上、先行開発も

「独自技術でさらに付加価値を高めて工賃仕事から提案型の製品づくりの追求は続ける。そのために生かすのが重要な対応策は、例えば抗菌防臭をは

加藤 淳二氏に聞く

愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センター機能加工室室長



繊維技術センター内の研究設備

11月に被災下請け向け商談会

被災下請中小企業震災復興特別商談会開催事務局

善したが、製造業、建設業、小売業は4カ月ぶり注している企業がある